



二葉幼稚園

園のたより

2025 年

3月



3 月 の 聖 句

わたしは あなたとともにいる

イザヤ書43章5節

3 月 の さ ん び か

きゅうこんのなかには

こどもさんびか かいていばん135

希望をもって



ある日の自由活動。ことり組では子ども達が大量の紙コップで遊んでいました。あるチームは紙コップを伏せて床一面に並べ、その上を数人がバランスよく歩く(紙コップがひしゃげないので！)、それを見た誰かがその上に積木をそっと置くと紙コップが橋桁のように見え、また遊びが広がり面白い。紙コップの上を歩く、何て斬新なアイデアでしょう！違うグループは紙コップをひたすら重ね、友達と協力して長い蛇状の物を作っていました。また別のグループでは紙コップで壁？タワー？を創っていました。保育者の見守る中、友達と思い思いに遊びを広げる眩しい姿がありました。

つくし組では何となく大きな二つの遊びが繰り広げられていました。一つは箱製作に夢中になる子ども達。一つはままごと用衝立と積木でスキージャンプ台のような斜面と、その先にはトンネルを造り、ブロックで作った車を走らせていました。トンネルが長いので途中で車は止まるのですが、繰り返しチャレンジ！笑顔でわいわい遊んでいます。短時間にも「こうしよう」「あ～しよう」とアイデアを出し合い試していました。担任に聴くと毎日少しずつ斜面とトンネルは改良されているとか。両クラスとも保育者にくっついていた1学期とは異なり、友達同士でコミュニケーションをとり、遊びを創り出し、発展させる頼もしい姿がありました。

年中ではコロナ禍以降広がっていた保育室を以前の環境に戻しました。1人使いをしていたロッカーも2人で使用する方法に変更しましたが混乱は見られず、まるで以前から2人で使っていたかのようにスムーズに理解して使用しているというのです。子ども達の成長に保育者は目を見張るばかり。外では地面のあちこちに×を描いておき「×を見つければ成功」という独創的な遊びがあったり、自転車の貸し借りもただ「貸して」「いいよ」でなく「〇ちゃんが次待ってるからその後ならいいよ」「うん、わかった」と状況を説明したり、納得したり。子ども達だけで遊びを工夫する、ルールを伝え合う、時には困っている保育者に助け舟を出すなど、様々な力が育っていると実感します。

年長最後の造形遊び。今年1年身体も含めた楽器遊びを楽しんできたので「好きな楽器を創ろう！」がテーマに。廃材も色々集め朝から活動は始まりました。開始から1時間後、覗きに行くと出来上がってきた自慢の楽器達を心躍らせ披露してくる子ども達。自然発生的に数人が集まり、悦に入って演奏を始めます。風船を膨らませながら叩ける不思議な太鼓や異なる音を組み合わせたミニドラムのような楽器等、お互いの楽器を弾きあい、「～したらいいんじゃない？」と真剣にアドバイスしあう姿も見られました。面白くて何個も楽器を生み出す姿もありました。保育室は友達のアイデアに刺激され、自分で考えたことを少しずつ形にする喜びと満足感に溢れていました。

『遊び』と言えば、車軸と車受けとの間に適当な余裕があるのを『アソビ』と言いますね。あまりにもピッタリとあっていると回りませんし、緩すぎてもいけない。人生も同じであまり堅く考え過ぎるとかえって円滑に回らないこともあるのではないかと思います。逆に言えば、まったくの無駄にしか見えないのに、それがあがあるために円滑に進むということもあります」河合隼雄/こころの扉 子ども達の遊びは決して無駄ではなく、一緒に遊ぶ仲間、十分に体を動かす空間、思い切り遊ぶ時間の中で生きる力が育ちます。こうあるべきという固定概念に囚われすぎると新しい発想は生まれてこない、神様に守られ自由な発想で生きる子ども達から改めて希望をもって柔軟に考えることの大切さに気付かされます【園長】